

平成22年度第2回安曇野市スポーツ振興審議会 会議概要

- 1 審議会名 スポーツ振興審議会
- 2 日 時 平成23年2月23日 午後7時00分から午後8時40分まで
- 3 会 場 豊科公民館 大会議室
- 4 出席者 下里会長・青嶋副会長・西村委員・等々力委員・丸山(順)委員・
黒岩委員・降旗委員・臼井委員
- 5 市側出席者 丸山教育長・赤羽課長・青柳係長・深澤副主幹・中島主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成23年3月2日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

(1) 開会 (課長)

(2) 諮問

(教育長) スポーツ振興計画もようやく最終段階を迎えることになった。今日も意見をもらって完成にもっていきたい。諮問書を読み上げ、会長に渡したいと思う。

(諮問書読み上げ)

25名の策定委員に9回の会議に渡って検討し、策定してもらった。行政経営会議、議会、定例教育委員会でも審議してもらった。みなさんにも前回審議してもらい、今日また審議してもらおう。スポーツ振興審議会条例によると答申という言葉ではなく、建議とうたっているの、意見を伺うということでお願いする。

(3) あいさつ (会長)

(会 長) 日中は春のような陽気である。前回、出された意見に対しての説明などがある。よろしくご審議をお願いしたい。

(4) 協議事項

①スポーツ振興計画案について(係長より説明)

・建議期限 ・パブリックコメント実施結果 ・前回会議時の意見に対しての考え方

(事務局) 3月中旬までに建議終了ということをお願いしたい。

(意見なし一了承)

(会 長) 説明のあった修正案等について審議をお願いしたい。

(委 員) スポーツ少年団について抜き出して書いてあるか。

(事務局) ない。

(委 員) スポーツ少年団は、体育協会の競技力向上のステップアップ、底辺拡大に役立っているという色が濃くという気がした。スポーツ少年団には、競技力向上もあるけど違う意図もあると思って、この前の発言もあった。スポーツ少年団のほうでどう考えるか。

(委 員) 前回、いろいろ発言させてもらった。競技スポーツと指導者の育成という分野でのスポーツ少年団の捉え方について意見を言った。訂正された文章でまとめてもらえたと思った。安曇野市のスポーツ振興というものを見たときに青少年に対するスポーツ振興、推進の部分のインパクトが薄いように思う。活力のある安曇野市を考えたときに大きな柱の中に青少年のスポーツ振興、スポーツを通じて健全育成を図るという意味合いを含めた形での位置づけがあつてしかるべきではないか。そういう意味がこの前インパクトが弱かったかもしれないが、質問に出した別の項目、県の振興計画への整合が必要というのはそんな意味を含めている。ただ、県のほうは学校体育中心に捉えているので、ここでは社会体育系の青少年もしくは幼年期のスポーツ振興というところの捉え方は県の振興計画では薄いわけだが、少なくとも柱というものを踏まえたときに5つにまた基本構想の基本目標はいいまとめ方をしてきたと思うのだけれども、青少年を視点にしたスポーツ振興の文面がないことがもう一つ腑に落ちない。

協 議 事 項 等

- (事務局) 生涯スポーツの推進の中に少年期のスポーツ活動の推進の項目を追加した。スポーツ少年団と表現はしていないが、小中学校、スポーツ団体など相互の連携により、学校運動部活動における地域の外部指導者の活用など児童生徒がスポーツに親しむ習慣や体力を養うことのできる環境の充実を図りたいということで付け加えた。
- (委員) 青少年のスポーツ振興というのを考えた時に少なくとも5つの基本目標の中に入れるとすれば、一つは生涯スポーツの推進のところをしっかりとした形で青少年のスポーツ振興というか推進ということ設けることも可能だと思う。もう一つは5番目のスポーツを通じたコミュニティづくりの中も考えられる。私なんかスポーツ少年団をやりながら、総合型地域スポーツクラブをやっているつもりでいる。そういう視点から考えるとスポーツ少年団って言い方を強くは出すつもりはない。青少年のスポーツの推進ということを前面に出してほしい。スポーツ少年団は子どもたちが三郷も入って2千人になろうとしている。指導者も3百人を超え、ボランティアで真剣に取り組んでいる。そういうものがほとんど計画の中にできていない。私としては納得できない。
- (事務局) ご意見の趣旨は分かった。総花的なところは否めない。一番大前提にうたわれているところが、生涯スポーツとして年齢を問わず、幅広くスポーツに親しみ、国民がみな元気で楽しい日常生活が送れて健やかに過ごせるというところにある。総花的になってしまうところは理解してほしい。
- (委員) 11ページのスポーツに親しむ機会の充実の中の(6)を一つ付け加えてもらって少年期のスポーツ活動の推進とある。これを読んだときに外部指導者の活用ということがあがっている。外部指導者の活用という中の大きなテーマは学校での指導がなかなか難しいということである。専門的な指導を補うためということが外部指導の大きな柱になっている。少年期のスポーツ活動の推進の中に入ってきているが、今の話のような形でねらいが違うと思う。
- (委員) 学校活動ではなかなか指導できない。社会体育といったほうがいい。ちょっと違うと思う。
- (事務局) 部活の延長にある活動とスポーツ少年団のような社会体育活動の整理がついていない。教育委員会内でも協議中である。この辺のところはもう少し整理する。
- (委員) 生涯スポーツと考えたときに幼年期、少年期にいいスポーツ経験をするとか、そういう経験が一番大事な生涯スポーツにつながるという認識をしっかりもっていくことが大事だと思う。高齢者になって運動やれ、運動やれって言うのではなく、スポーツ少年団とは言わないが、スポーツ活動をやっていけば、比較的、将来的に生涯スポーツにスムーズに入っていける。それが大事なことだと思う。それだけに、ぜひ、6番がここに付け加えられたというのではなくて、極端なこと言えば、1番でも2番でもいいから前のほうにもってきて、そういった部分の幼年期、少年期、青少年、どういう言葉が適当か分からないが、いずれにせよ、やることは非常に生涯スポーツに大事なことなんだというまとめ方をしていただければいいと思う。
- (委員) スポーツに親しむ機会の充実っていう項目から入るわけだね。こんなに難しく書かなくても、地域で育った子どもたちが継続してスポーツをやっている環境をまわりで整備する、要するに指導者確保も一つの事柄かもしれないけど、地域でその子どもたちが幼稚園から小学校、中学校、高校、社会人っていくときに地域で継続してスポーツが楽しめるような環境づくりっていうのはしていく必要があるということがスポーツに親しむ機会の充実に入ってくると思う。たまたま具体的に中学校部活動の連携って入っているんだけど、一つの要素でしかないと思う。スポーツ少年団もずっと楽しんでもらうために大人が活動して見守ってやるっていう機会の環境整備をしていくということではないかと思う。ただし、一つとして中学校部活動との連携、外部指導者も入ってくる。外部指導者を入れることによって競技力を増すのか、競技力向上よりは外れて見守ってやる形の外部指導者もいると思う。

協 議 事 項 等

- (事務局) すべての人が競技力を向上させるという方向に向いているわけではないと思う。
- (委員) 話は変わるが、スポーツ施設の整備と有効活用のところと今の5番のスポーツ大会の開催というところに、こういった地域なので子どもにしても大人にしても一流のスポーツに触れていない、見ていない、感じていない。指導者も中には全国大会に行ったことのない指導者もいて、子どもたちを教えている。屋内スポーツだとこの前、穂高体育館にバレーボールの一部ではないけどきた。屋外だとなかなか誘致できない。そういう施設がない。野球にしてもサッカーにしてもなかなかない。近くでも山雅のようなプロに近いチームができてきている。そういったのを安曇野市のどこかに呼んでくれるような施設づくりを考えたほうがいい。失礼な言い方になるかもしれないが、指導者の中にも感じてないというか、もっと全国で勝たせようとか、それだけがすべてではないが、子どもたちがそれを見ることによって何か感じてもらえると思う。かつて穂高の運動会で佐久長聖にいた選手に走ってもらったが、それだけで感動した。いろいろなスポーツを呼んでくれる施設、もちろん市民が有効に使う施設ということも大事だが、そこにプラスアルファで小さいうちから見て感じてもらって、それで指導者や競技者に育っていくことになると思う。振興計画に加えてもらえればと思う。
- (事務局) 施設についてはいろいろな議論があって治まっている。冊子のほうの13ページに下のところに施設の役割として大規模大会を想定した拠点施設ということで記載してある。これは市外、県外からの使用も想定したということでぼやかした表現であるかもしれないが、一足飛びに県大会を開けるような施設を造るということはなかなか難しいことである。そこまではいかないが、今の意見のような高いレベルの方に来てもらえるように徐々にしていきたい。身近にみなさんが使ってもらう施設の中に拠点となる施設というものを考える。それと16ページに地域を代表する競技者を育てるためのの中で②に高い技術に触れる機会の充実ということで競技大会の開催、トップアスリートとの交流ということで記載してあるので、理解してほしい。
- (委員) 4年前にテニスでインカレが松本と豊科の南部公園にきた。インカレが来ると一週間大学生がいる。経済効果もある。
- (委員) 16ページの競技スポーツの振興ということで体協の方とも話した。体育協会の組織機能の充実はずいぶん欲しい。体育協会の強化ということを一生涯懸命やっている。しっかりしたものにしていきたいと協会の人、一人一人、みんなが思っている。最初の(1)の記載を生かした形で、そして2番目には各スポーツ団体への支援という形で収めてもらえればいいと思う。少しそのところを考えて欲しい。
- (委員) 体育協会の中のスポーツ団体の支援か。
- (委員) 違う。体育協会の機能、組織を充実させたい。訂正前の文面を生かしたい。
- (委員) 体育協会のほうでも総務委員会を立ち上げて協議を進めている。振興計画に体育協会の支援を入れるのは違う気がする。スポーツ団体の支援ならいいと思う。
- (委員) 競技スポーツを考えたときに体育協会がかかわる要素は大きい。そういう中での体育協会の組織機能を充実させていくという形の中での施策だと思う。
- (会長) 昨年度から総務委員会、企画財政委員会、広報委員会を作って、これからの体育協会を充実していこうということも考えている。総務委員会が最初に開いてもらっている。みんなが納得できるような施設はそろっていない。まだ手がまわらないかもしれないが、逐次、そういう方向にもって行って欲しい。スポーツ少年団も大事にして体育協会もがんばっていききたい。
- (委員) 事務局としては、体育協会は必要一定の組織化されて競技力向上の一躍を担っているということからスタートとしている文章になっている。今、言われたように体育協会はふらふらして

協 議 事 項 等

- (委 員) それは違う。しっかり新しい組織のために今年度から委員を作りながらやっている。上の支援という言葉は問題にしていない。(1)の体育協会の組織機能の充実というところは、いろんな意味でスポーツ振興として応援するという捉え方だ。体育協会、スポーツ少年団への支援という形で1番に体育協会の機能組織の充実、2番にスポーツ少年活動の支援っていうのを訂正してもらった。
- (委 員) 体育協会の組織はもうしっかりしているんだ。そのしっかりした組織が選手の育成とか支援のほうに力を入れるということをここでは言っているわけか。
- (事務局) そこまでの話ではない。今、話のた体育協会の機能組織の充実を施策の中に入れて変になることと、1番の表記が選手の育成、支援という表記でここに体育協会の組織機能の充実というのはなじまないということがある。前段の現況と課題という中で「安曇野市体育協会の競技団体などの活動によって支えられ、向上を図っています。このことは、生涯スポーツの推進と並ぶ大きな役割と言え、市も事業活動に対し支援しています。」というところに意味合いを込めている。体育協会にすべてを任せていいというものではない。市とともに発展していくという意味を込めて記載した。団体支援という項目がないので、それを出すとすると体育協会、スポーツ少年団に限らず、すべての団体を網羅した表現にしないとバランスが悪いということもある。
- (委 員) 先ほどの発言は、体育協会の組織機能の充実という言葉を入れたいということではないのか。
- (委 員) その下に「体育協会やその傘下競技団体と連携し、選手育成と競技力向上を進めます。」ということで文章としてはまとまっていると思う。一般にごく当たり前のことだと思う。常にどの団体でも組織機能の充実を図っていくことは、永遠のテーマだと思う。これはこのままいかしてもらいたいと思った。みなさんの考えにもよるが。
- (委 員) 訂正したものでいいと思う。
- (委 員) 中心になってやるのは体育協会。
- (委 員) 上の現況と課題でもふれている。
- (委 員) 上の現況と課題をうけて下の施策がある。先ほどの問題よりはこだわらない。
- (委 員) ここは競技スポーツの選手を育成・強化するため、体育協会の競技団体などの組織強化が重要ですっていうような言葉を入れてあげればいいのではないか。そのことが重要だからその活動を支援していくよということでもいいのではないかと思う。
- (事務局) 抜粋だけでなく、冊子のほうは変更したのも加えてあるので、また、前後が入って印象が変わってくると思う。
- (委 員) 16ページで競技力の向上はで始まって、向上を図っていますというのはおかしいので、進められていますとかのほうがいい。
- (事務局) 分かった。
- (委 員) 15ページの自然を生かしたスポーツ環境づくりという中で冬場のスポーツでスノーシューなんかもあった。
- (事務局) 冬スキーなどもある。それなりの環境整備が必要になる。国営アルプスあづみの公園なんかもあるので、そこら辺を活用していくのがあるかと思うので、ちょっとそこまでは踏み込みにくいところがある。その辺は視野に入れて進めていきたい。
- (委 員) 中学生の女子のスポーツ離れがものすごく激しい。やはり少年期のスポーツ体験が生涯スポーツにつながっていく大事なところではないかと思う。生涯スポーツの現況と課題にそのことを加えて欲しい。
- (事務局) 年齢が上がってきて体の動きが悪くなったからやろうかなと思ってもなかなかできないと思う。体を動かすというあたりから取り組んでもらうようなことを視野に入れていきたい。若いときに楽しく取り組んでもらうことがあとあとにいいと思う。
- (会 長) 体育の授業にソフトボールが入ってくると聞いている。
- (事務局) 武道は中学に入ってくる。
- (委 員) ソフトボールということではなく、ベースボール型の運動をしろということだ。昔はバスケット、バレーって決められてきたが、ラグビーとか今はいろいろな種類のスポーツが学校で取り組めるようになっている。
- (委 員) 学校の先生によっては、外部の指導者が入ってくるのを嫌う。外との交流ができないのも一つの問題である。
- (委 員) 外部指導者の品格の問題だと思う。
- (会 長) 審議はよいか。ほかに意見がなければ、その他をお願いします。

協 議 事 項 等

(事務局) 今日の意見をすべて取り入れるというわけにはいかない。9回の策定委員会を経てまとまってきたので、そちらも振り返りながらということもある。次回の日程を決めたい。3月15日で調整したい。また、通知する。

－閉会－